

第5回 常滑東小学校及び常滑西小学校の通学区域見直し説明会
(常滑東小保護者対象)

日 時	平成25年6月11日(火) 19:00~21:00
場 所	常滑東小学校 体育館
職 員	加藤教育長、榊原部長、澤田課長、小竹指導主事、山本指導主事、 吉房課長補佐、竹内課長補佐、竹内主事、稲葉主事、 小出主事、河添主事

○参加者： 男性17名
女性42名
合計59名

○常東小保護者：58名
常西小保護者： 1名

○北条地区： 14名
保示地区： 0名
市場地区： 0名
山方地区： 23名
瀬木地区： 4名
奥条地区： 28名
その他： 0名

○1年生： 5名
2年生： 13名
3年生： 13名
4年生： 12名
5年生： 18名
6年生： 9名
該当無： 3名(園児等)

○本日の流れについて（小竹指導主事より）

○あいさつ（加藤教育長より）

本日はご多用の中をお集まりいただき誠にありがとうございます。日頃は、学校教育にご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

はじめに、常滑東小学校と常滑西小学校の学区の見直しの問題につきまして、児童、保護者や地域の方々にご心配やご不安をおかけしておりますこと、まずもって心よりお詫び申し上げます。

さて、今後、私はこのように進めてまいりたいと考えております。まず、今は常滑西小学校と常滑東小学校に分かれています。もともとは同じ学校であり、中学校へ進めばみんなは同じ常滑中学校に行くことを話したいと思っております。

そして、お祭りに象徴されるように旧常（きゅうとこ）は一つであり、旧常の方々が見守ってくれていることを子どもたちに知ってもらいます。友達や仲間の大切さを道徳や個別活動の時間を利用して教えていきます。

また、児童会等を利用して、そのことをテーマにして子どもたち自身にも考えて取り組んでもらいます。さらには、各行事等を利用して、子ども同士の交流を進めていただきます。

来年度になれば、それぞれの学校で出発式が行われ、新たな学校づくりを始めます。児童会にも、新しい学校づくりをテーマに取り組んでいくようにもっていきます。教員人事面では、常滑東小学校の子どもを知っている常滑東小学校の先生方にある程度常滑西小学校に移ってもらいます。

そして、年度当初の学年学級懇談会や家庭訪問等を利用して、家庭の様子を聞きながら進めます。5月ごろには、教育相談等の時間を活用し、子どもたちから様子を聞きます。スクールカウンセラーに助言をいただいたり、必要な子どもには、スクールカウンセラーとの面談の時間を取ります。

教師の観察だけでは気づけない部分があります。それを補うために、QUテストの導入も考えております。これは、不登校の可能性の高い子ども、いじめを受けている可能性の高い子ども、学校生活に意欲が低下している子どもを発見し、早期対応に繋げることができると言われております。

学校は、出会いがあり、別れがあるところ。そうした中で、子どもたちが生きてゆ

く力を身につけてゆくところです。学校はそうした機会を通して、子どもたちを育てていきます。

学区の見直しにより、子どもたちに親しい友達と別れるという悲しい体験を強いるかもしれません。また、大勢の子どもが転入をしてきたために、不安になることもあるかもしれません。しかし、私は、この体験から子どもたちに大事なことを学ばせたいと思います。友達はなくてはならない存在、仲間のありがたさ、だからこそ、絆の大切さ、そうしたことを子どもたちが学ぶ教育の場にしたいと思います。

常滑地区は昭和55年に常滑小学校を常滑西小学校と常滑東小学校に分かれました。当時の子どもたちは、保護者の方や地域の方々の協力や見守りの中で乗り切ってきました。また、常滑以外の地区でも、統廃合や通学区域の見直しは行われておりますが、子どもたちは大人たちが思っているよりもたくましく乗り切っているということを知っています。こうした機会は、デメリットもありますがメリットもあります。

今回も、皆様方のご協力をいただき、どちらの子どもたちにとって価値ある機会としたいと思います。是非、今一度、子どもたちのために皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

- 通学区域の見直しについて（澤田課長より）
（パワーポイント、配布資料に沿って説明。別紙資料参照）

女性1 (常東小4年)	Q1：かじま台に住んでいる。通学路はどうなるのか。	A1：大阪屋の前の道が最も危険であると考えている。詳細については、これから相談しながら詰めていきたい。 大阪屋より南側の道も考えられるが、逆に人通りが少なく寂しくて危ないのではないかというご意見もあると思う。
女性1	Q2：山方は山方で通学団を作り、かじま台はかじま台で通学団を作るのか。	A2：今お答えできないが、相談いただければと思う。
女性1	Q3：4年生だが、一人しかいない。通学路が他と別になると嫌だと思うので、子どもの意見を聞いて通学路を決めてほしい。	A3：子どもの意見を聞いた上で相談したい。
女性1	Q4：通学団は作らないのか。	A4：常西小では通学団でなく誘い合い登校をしている。ただし通学団を希望する意見が多ければ検討する。
女性1	Q5：子どもを守る会はどうなるか？	A5：市全体としては変化はないと思う。見直し後は該当地区の体制が変わると思う。
女性1	Q6：通学路の決め方はどうなるか。PTAや親は参加できる？	A6：まだ細かく決めていない。 学校やPTA会長や役員と相談し、これから考えたい。
女性1	Q7：通学路は勝手に決められてしまうのか。	A7：相談の上で決めていくので、一方的に決めるわけではなく、決めていく段階で情報をお届けできると思う。
女性1	Q8：通学路の説明会は設けられるということか？	A8：通学路だけの説明会は開く予定はない。 意見を聞いたり、説明をしたりする場を設けるなどしたい。
女性2 (常東小2年)	Q9：防災対策について。常西小の校舎は古いので、津波の前に地震で崩れてしまうのではないか。	A9：常滑市は、知多半島で最も早く耐震工事を行った。東日本大震災が発生したが、この震災前後において耐震基準は変わっていない。 ある程度の地震に関して崩れることはないと思う。
女性2	Q10：屋上に避難するより高台へ避難した方がよいと思う。	A10：まず机の下に隠れ、おさまったらいったん運動場へ避難する。それからどうする

		<p>か判断する。</p> <p>このとき、4階に上がった方がよいのか高台に逃げた方がよいか選択肢がある。</p> <p>常西小のそばは道が狭く、古い住宅がたくさんあるので、逃げる道が確保できるかどうか。</p> <p>校舎がしっかりしていて想定の高さであれば、4階に逃げた方が安全という判断をする。</p> <p>更に想定外の津波があった場合、屋上に全校児童が逃げるといった形を考えている。</p>
女性3 (常東小5年)	<p>Q11: スギヤマの奥は車がすれ違えないくらいの細さである。</p> <p>交通規制等も含めて、対策は4月までに間に合うのか。</p>	<p>A11: 大学教授よりいろいろアドバイスを受け対策したい。</p> <p>交通規制等は警察が関わることなので、必ずやれるかどうかは断言できないが、7月からの通学路交通安全対策連絡協議会は警察も入ってもらい、大学教授にも来ていただくので、ご心配な部分は議題にさせていただき、選択肢の中で一番安全な方法を選んでいきたい。</p>
女性3	<p>Q12: 新6年生に弟妹がいる場合、別々の学校に通う人数は多いと思う。</p> <p>両校の行事が重ならないようにしてもらえるか?</p>	<p>A12: 両校のスケジュールもあるので、約束はできないが、何らかの形でできるようにしたい。</p>
女性3	<p>Q13: 特例措置の「問題が生じる場合」とはどんなことか?</p>	<p>A13: いろいろあると思う。子どもの性格等によって、どうしても変わることができないこともあると思うし、それぞれ事情があると思うので、ご相談いただければ教育委員会で検討させていただく。</p>
女性4 (常東小2, 5年)	<p>Q14: 2年生の子が児童センターに通っている。</p> <p>常西小の場合は、児童育成クラブは必ず預かってもらえるか?</p>	<p>A14: 常西小で学童保育が受けられるかどうかは、人数を把握していないので約束できない。</p> <p>来年度は飛香台でも開設予定なので、トータルの人数としては受け入れられると思うが、必ず常西小で受け入れるということは約束できない。</p> <p>可能な限り努力したいので、希望が出された時点で考えていきたい。</p>

女性4	Q15：常西小に通いながら児童センターを希望することはできるか。	A15：可能だと思うが、事前相談はしてほしい。
女性5 (常東小2年、4年)	Q16：去年9月に出された教育委員会の案は11月に廃案となった。 今回は5月に発表して6月に決定するのは早すぎないか？	A16：学識経験者や地元の区長等からなる検討委員会を立ち上げ、4月末に答申を受け、今回の案を作った。 この案が決まれば、通学路、学区外申請、常西小工事、来年度の教員配置等があるので、私どもとしてはなるべく早く学区を決めたい。
女性5	Q17：6月にやるかやらないかを決めるのではなく、やることを決める？	A17：やることを決める。 今回の案が全く問題ないということはないと思う。ただ、検討委員に検討していただいたので、大きな間違いはないと考えている。 よって、基本的にはこの案でやらせていただきたいが、見落とし点等あると思うので、パブリックコメントや説明会にてご意見を伺い、詰めたうえで6月に決定したい。
女性5	Q18：6月に決まったとしても、やはり後になって不備が出て来年度はやめて再来年度になることはありうるか。	A18：それは想定していないが、来年4月から実施するにはいろいろな準備が必要になるので、できるだけ早く決めて準備していきたい。 もし、これができない状況であれば、来年4月からを断念する可能性が全くないわけではない。 しかしそうならないように今まで準備してきたし、ご理解いただけるように説明してきたつもり。
女性5	Q19：防災対策で、運動場にいったん集まるということだが、人数も多く時間がかかると思う。 クラス単位で判断して行動することはどうか。	A19：その方がよいケースもあるかもしれないが、基本的にはいったん運動場に集まっていただく。 昨年度、緊急地震速報受信システムを全校に備え付け、これを使った訓練を行っている。そのとき、大学の教授に来ていただき、アドバイスを受けて避難訓練をどうしていくべきか考えた。
女性5	Q20：体操服は常東小のまま使えるか？	A19：そのまま使っていて構わない。常東小と書いてあるのが嫌な子どももい

		<p>と思うので、ワッペンを用意させていただく。</p>
女性5	<p>Q21：算数セットと鍵盤ハーモニカのマウスピースは買わなければいけないのか。</p>	<p>A21：常東小は学校に算数セットがあるが、常西小は個人で持っている。 扱いが常東小と常西小で異なるものについては、教育委員会の責任として買うことを決めた。</p>
女性6 (常東小3年)	<p>Q22：見直し対象地区に千代ヶ丘二丁目の一部とあるが、同じ二丁目内でも分かれるのはなぜか？</p>	<p>A22：二丁目の中に瀬木区と奥条区があるため。</p>
女性7 (常東小5年)	<p>Q23：配布資料7ページに転校児童数が載っているが、学年ごとの児童数が知りたい。</p>	<p>A23：学年ごとの人数について。常東小から常西小へ転校する児童は、26年時点で見ると1年生65人、2年生76人、3年生69人、4年生58人、5年生77人、6年生82人、合計427人。 常東小に残る児童は、1年生83人、2年生77人、3年生58人、4年生52人、5年生51人、6年生41人、合計362人。</p>
女性7	<p>Q24：友達がみんな常西小に行ってしまうという子どももいる。 見直し対象地区以外の子どもも一緒に常西小に移れないか？</p>	<p>A24：相談いただければ検討する。</p>
女性7	<p>Q25：「学区外通学は保護者の責任」の意味は？事故があった場合、保護者が責任を取れということか。</p>	<p>A25：学区外通学は、学校が想定した学校区ではない。 実際の通学区域の中であれば当然学校は情報を持っており通学路について把握しているが、学区外で遠く離れていると把握・判断ができない場合があるので、通学路の点検等は保護者でお願いしたい。 もちろん学校や教育委員会がまったく知らないという訳ではない。事故があった場合は補償する。 想定外のことがあるので、保護者の方でよくご確認いただきたいという意味で保護者の責任とさせていただいた。</p>
女性7	<p>Q26：8月末に学区外通学申請を締め切った後に移動する人数を知らせてもらえるか。それを見てまた申請したり、</p>	<p>A27：人数は求められれば示すし、8月末で締め切った後に申請したり申請を取り消したりしていただくことも想定しているの</p>

	申請を取り消したりできるか。	で、その都度ご相談いただきたい。柔軟に対応したい。
男性 1 (常東小4年)	Q27:学区を変えることは決まっているのか。	A27:変えさせていただきたいと思っている。
男性 1	Q28:ハード面はある程度決まっているようだが、ソフト面はほとんど何も決まっていない。不安な状態で変えるのか？	A28:それぞれの学校が学校行事を決める。 そのため、教育委員会の方から「こうしなさい」とは言えない。
男性 1	Q29:学区変更を決めるのは学校か教育委員会か。	A29:教育委員会。
男性 1	Q30:具体的な内容を示してほしい。不安を解消したいから皆ここに集まっている。	A30:学校には目標があるので、これを達成するために最も良い方法を学校が校長の責任のもとで進めていくのが理想と思っている。これをサポートするのが教育委員会の務め。教育委員会からこうしろと言うのは越権行為にあたる。 通学路については具体的に決まっていな いが、みなさんと相談しながら決めていくことが一番と考える。 西浦北小が移転した際のこと。当初、学校としては交通量の少ない道を通学路に設定しようとしたが、保護者から細くて暗い道を通るのは心配だという声をいただいた。どちらを通学路とするか保護者と相談した上で決定した経緯がある。 今回も、どこの道を通るのがよいか保護者と相談して決めていくべきだと思う。
男性 1	Q31:学区を変えることが前提だが内容ははっきり決まっていない。 変われと言っておきながら、変わった後は教育委員会は知らんぷりと受け止められる。	A31:すべてを学校任せにする訳ではない。大学の教授を呼んでアドバイスをいただくなどして、できる限りの準備をしている。 サマースクールを両校で合同でやることを提案している。 今回、子どもたちのパブリックコメントを読ませていただいたが、自分たちでキャンプがやりたい、常西小と合同でやりたくない、という意見もあった。 やはり、一方的に教育委員会で進めるのではなく、学校が子どもたちの状況を見なが

		ら、それぞれの地域の実情に合わせながら行事を作り上げていくことが学校教育で重要なことと思う。
男性 1	Q32：常西小の標高を考えると、やはり高台避難が最優先と思う。道がふさがっていても、がれきの上を行けばよい。	A32：学校とよく相談していきたい。
女性 8 (常東小 5年)	Q33：常東小と常西小の交流をもっと増やしてほしい。飛香台はスーパーがあり病院もできるので、飛香台の中で事が済んでしまう。子どもにはもっと世界を広げてほしい。	A34：お祭りで、北条区の山車を飛香台に持って行ったら、飛香台の人も北条区のお祭りに参加しようと仲間に入った人もいた。 両校の交流を増やしていけるようにしたい。
女性 9 (常東小 4, 5年)	Q34：大曾に住んでいる。来年4月からバス補助するとのことだが、それなら今から補助できないか。	A34：文科省の目安として4キロまでの通学距離であれば歩いていただく。 今回の見直しで常西小に変わっていただくことにより4キロを超えてしまうケースが出てくる。 状況が変わったので、補助をさせていただく。 今は補助できる理由がない。
女性 9	Q35：今後補助が減らされないか。	A35：断言できないが、状況が変わって理由がしっかりしているので、予算が維持できるのではと思う。
女性 9	Q36：帰りに山方橋のバス停から乗るとき危ないので、先生に付き添ってもらうことはできるか。	A37：必ずしも約束できないが、学校に伝えたい。
男性 2 (保育園年長)	Q37：通学路はどのように対策するのか、決まっていることを教えてほしい。	A38：最も危険と意識しているのは一木橋の下の道。しかし物理的に道路拡幅は困難である。 大学教授に話を聞いてみたところ、例えばプラスチックのポールを設置すると効果的と伺った。 実際に大学教授に現場を見てもらったわけではないが、来年4月に向けて検討していきたい。
女性 10	Q38：常東小は陶芸をやれる。常西小に変わってからも陶芸をやらせてもらいたい。	A39：教育委員会の一存では決められないが、常西小には伝えていく。

女性5	Q39：どこまでが学校で決め、どこまでが教育委員会が決めるのか。質問や意見はどこに言えばよいか。	A39：どちらに質問してよいか分からないときは、まず学校教育課に質問していただければお答えする。
女性5	Q40：通学時間が長くなるので、授業開始時間を考慮してほしい。	A40：市内では他にもっと遠い子どももいる。文科省では4キロを基準としている。 北条の奥やかじま台の奥でも2キロなので、教育委員会としては必要ないだろうと思っている。
女性5	Q41：「だろう」ということは、学校がこれから決めるということか。	A41：みなさんからそういうご希望が多ければ別だが、そうでなければ教育委員会としては授業開始時間を変える必要はないと考える。
女性5	Q42：変わる前に、体験入学はやるのか。試しに集合時間に集まり、通学してみるとよい。	A42：3学期には新しい通学路を歩いてもらえるように、学校と話し合いながら進めていきたい。